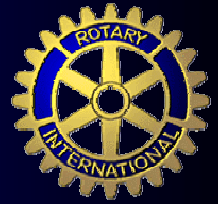


会 報

つくば学園ロータリークラブ



9月29日例会報告

キン・ワイン・シさん(ロータリー基金奨学生)卓話



つくば学園ロータリー基金奨学生のキン・ワイン・シさん(筑波大学院生)が研究テーマである「源氏物語」について卓話をされました。
(後ページに掲載)

ローターアクト決算報告 に参加して 井田新世代奉仕委員長



2820地区活動報告

染谷新世代奉仕総括委員長

ビジター

キン ワイン シ 様	つくば学園ロータリー基金奨学生（筑波大学院生）
------------	-------------------------

ニコニコBOX

野堀 喜作	キン ワイン シさん すばらしい卓話ありがとうございました。
本日の合計	¥3,000-
本年度累計	¥334,000-

出席率

会員数	出席数	欠席数	無届欠席数	出席率
61名	43名	18名	3名	70.49%

10月の結婚・誕生祝い

月	誕生日			結婚記念日
	会員		配偶者	
10月	路川 淳一	9	川口 真珠 7	菅原 俊・浩子 4
	大野 治夫	11	小堀 静江 19	石川 英昭・桂子 5
	長谷部 一男	11	磯山 とし子 21	田口 幸男・葉子 14
	柴原 浩	23	大野 すみ子 23	中山 正巳・敬子 23
	川口 史朗	28		上野 修・いゆ子 29
	田上 憲一	30		東郷 治久・富紀子 29

世界三大古典「源氏物語」を研究して

つくば学園ロータリー基金奨学生である キム ワイン シさん（筑波大学院生）の卓話です。
レポートを掲載致します。

世界三大古典の『源氏物語』を研究して…

KHIN WINE YE（筑波大学院3年次）
2005年9月29日（木）



『源氏物語』は、私にとって全く未知の世界の物語であった。1000年も昔の世界、しかしそこで生活している人々の感情、感覚は今の私達と全く変わらない。決して古くない、黴臭くない。私が何よりも驚かされるのは、作者紫式部の天才的才能である。それは見事な心理描写、心理分析、感性豊かな自然描写、物語のプロットの緻密さなどである。

私がこの『源氏物語』に出合ったのはもう二・三年前のことになる。私の尊敬するミャンマー民主化運動のシンボル、アウンサン・スーチー女史が“『源氏物語』

に驚き、感動した…”という記事を読んだ時である。『源氏物語』は、現在「世界三大古典」、「世界十大小説の一つ」と言われている。ちなみに世界三大古典という他にダンテの『神曲』（1300年代）、シェークスピアの『戯曲』（1600年代）があげられているが、『源氏物語』は1005年頃の作品で、ダンテの『神曲』を300年も遡るのである。『源氏物語』の評価はこのように非常に高く、これは今でも続いている。一体何故なのだろうか。

『源氏物語』には、またそれに関連した非常に興味深い多くのエピソードがあり、さらに1000年も昔の作品であるが、まさに驚嘆するような絶賛とも言える賞讃の言葉が多く寄せられている。これらに加え、私達の好奇心をかき立てる大きな謎も秘められている。

今回はこれらのことについていくつかのお話をしてみたい。

まず『源氏物語』の世界へのデビューのきっかけである。1878年（明治11年）、ちなみに坂本龍馬が暗殺された10年後、東京大学で教鞭を執るため一人の哲学者がアメリカより来日した。アーネスト・フェノロサである。彼は日本の古典美術に強く惹かれ、日本画復興に奔走したのである。彼はこのことから日本美術復興の父とまで言われた。彼はまたこのために、現在の東京芸術大学の前身である東京美術学校を門下の岡倉天心と創設している。

彼はさらに舞台芸術、また文学でもある「能楽」を高く評価し、帰国後亡くなるまで能楽の台本である謡曲の翻訳に情熱を燃やしたのである。しかしこれは未完に終わっていたのである。しかしながらこれをもとにして、20世紀を代表するイギリスの大詩人パウンド、イェイツ（ノーベル賞）らが、初めての謡曲翻訳集『Noh Plays』（フェノロサ&パウンド）、「能楽様式の象徴劇」（イェイツ）をそれぞれ出版、執筆している。そうしてこの「能楽様式の象徴劇」が、当時のアレクサンドラ皇太后の臨席のもと、上演されたのである。その反応は衝撃的であったと伝えられている。

ここに、後に世界で始めて『源氏物語』の全英訳をやり遂げたアーサー・ウェイリーがいたのである。感性豊かな彼は、パウンドらに続きさらに高度の芸術性が評価された英訳『日本能学集』（1921年）を出版している。彼はこの中で『源氏物語』に遭遇し、その魅力に引き込まれていった。彼はこの4年後の1925年、早くも『源氏物語』英訳を出版にこぎつけている。1878年来日したアーネスト・フェノロサが、『源氏物語』最初の英訳者アーサー・ウェイリーと、ここでつながったということになるのであろう。

(4 ページに続く)

(3 ページから続く)

このウェイリーの『源氏物語』の英訳が、ヨーロッパ世界に巻き起こした反響は、実に大変なものだったということである。『源氏物語』はこうして外国にて、華々しくデビューしたのである。この英訳を元に、各外国語訳が次々と出版されていったのである。

世界における『源氏物語』の翻訳者達

英訳→ (1925年) アーサー・ウェイリー (ARTHUR WALEY 1889~1966年)
 (1976年) エドワード・サイデンステッカー (EDWARD G. SEIDENSTICKER)
 (2001年) ロイヤル・タイラー (ROYALL TYLER)
 オランダ語訳→ (1930年) エレン・フォレスト
 ドイツ語訳→ (1937年) ヘルベルト・ヘルリチュカ (ウェイリー訳よりのドイツ語訳)
 (1985年) オスカー・ベンル (和歌の訳に工夫を凝らした優れた翻訳)
 イタリア語訳→ (1957年) アドリアーナ・モッティ
 中国語訳→ (1973年) 林文月ら
 フランス語訳→ (1977年) ルネ・シフェール (RENE SIEFFERT)
 ロシア語訳→ (1993年) タチアナ・ソコロウ・デリューシナ
 韓国語訳→ (1999年) 田溶新 (完訳)
 チェコ語訳→ カレル・フィアラなど……

このように欧米においての『源氏物語』は、非常に注目され、また高く評価されたのに対し、皮肉なことにこの明治から大正にかけて日本では、年々庶民から遠く離れた存在になっていた。というのは日本文学が、古典文体から話し言葉すなわち口語文体に変わり、難しい古語文体で書かれた『源氏物語』は理解できなくなってしまっていたからである。驚いたことに著名な多くの小説家達も同様であった。例えば、夏目漱石までが、「我々の将来に役立つのは西洋文学であり、日本の古典は何ら役立たない」とまで言う始末であった。また自然主義の大家、大御所正宗白鳥も原文の『源氏物語』を読みこなせなくなっていたのである。彼は原文の『源氏物語』を「退屈きわまりない」と迄言ったのである。その正宗白鳥が外国の友人に勧められ、ウェイリーの『源氏物語』英訳を読み、こんなに面白いものだったのかと、感動したのである。彼にとっては英訳の方が読み易くよく理解できたのである。

このようにこれほどの人達までが、古典の読解力が衰え、心理分析の権威フロイトをも超えるとまで外国で言われている紫式部の心理描写、心理分析が、この人達には読みとれなくなっていたのである。しかし現在では、與謝野晶子に始まり、谷崎潤一郎、最近では、田辺聖子、瀬戸内寂聴ら多くの著名な小説家が『源氏物語』の口語訳を世に出し、誰もが容易に『源氏物語』の面白さならびにその奥深さのようなことまでを知ることができるようになったことは非常に喜ばしいことである。

この他にいくつかの『源氏物語』の謎についても触れてみたい。

まず一条天皇の正妻である中宮彰子（藤原道長の娘）の教育係であり、お付きの女房であった紫式部が、『源氏物語』の主人公光源氏が、父親である天皇の妻と不倫関係に陥り、出産までするようなことを描けたのは非常に驚きべきことではなかろうか。何故このようなことができたのであろうか。

ここでこれを考えるために紫式部と藤原道長の関係について触れてみる。

まず藤原道長であるが、彼は平安時代最も華やかに光り輝いた藤原国風文化を演出した中心的な存在といえる。また彼は四代に渡る天皇の外戚の父であり、実質的な最高権力者という立場であった。性格は剛毅・剛胆。知力、戦略、先見性に優れていた。また武道、特に弓に関しては並ぶ者がなかったと伝えられている。さらに文学などの芸術にも造詣が深く、著作も残している。これに加えてその人柄はやさしく心暖かい。『源氏物語』の主人公光源氏とかなり重なっているところも多い。このような道長と紫式部との関係であるが、彼は紫式部の父を越前守など重要な公職に任命している。また式部の才能を早くから高く評価しており、彼女の夫も道長自身が選んでいる（しかし数年で死別）。

紫式部はこの夫の死後『源氏物語』を書き始めている。道長は、紫式部を一条天皇の皇后になっている自分の娘彰子の教育係として宮廷に呼んでいる。『源氏物語』のかかなりの部分がここで書かれ、そうして

(5 ページに続く)

(4 ページから続く)

藤原道長自身『源氏物語』の執筆に関与、アドバイスなどしていることが伝わっている。このようなことから藤原道長という実質的な最高権力者という存在が紫式部の背後にあったからこそ、『源氏物語』主人公光源氏の天皇の妻との不倫、出産など奔放な恋愛をメインテーマの一つとした『源氏物語』を彼女が書くことができたのではないかと私は結論づけたのである。

また『源氏物語』の巻の中、「雲隠」というタイトルのみで、一文もないまさに白紙の巻が存在している。ちなみにこの「雲隠」という言葉、古来「死」の比喩的表現とされており、これが光源氏の「死」を意味していることは間違いないのだが…。紫式部が秘かに慕い憧れていたまさに彼女にとっての理想の男性、道長の死、その現実が、自分にとってどんなに悲しく切なくつらいものなのか、その時に襲ってくる心境を、『源氏物語』の中で自分の渾身の筆で描き尽くしてみたい、そう考え、紫式部は「雲隠」巻を白紙のまま残しておいたのではないか、しかし皮肉なことに若い紫式部の方が先に黄泉の国に旅立ってしまったのである。こうして「雲隠」巻は『源氏物語』において巻名のみで一文もない永遠の空白として残ってしまったものと私は結論づけているのであるが。最後に道長と紫式部の関係をそれとなく匂わせるような非常に興味深い歌のやりとりを紹介して終わりにしたい。

ある夜のこと、道長は式部の部屋を尋ねたが、どうしてもあけてくれないので、次のような歌を残して去っていったという。

夜もすから 水鶏よりけに なくなくぞ 真木の戸口に たたきわびつる (藤原道長)

「口語訳」 一晩中水鶏（ツル目クイナ科の鳥）がなくよりも一生懸命あなたの部屋の戸を叩き続けたのに、あけてくださらず、寂しい思いをしましたよ

これに対し紫式部は次のような歌を返している。

ただならじ とばかりたたく 水鶏ゆえ あけてはいかに くやしからまし (紫式部)

「口語訳」 水鶏みたいに、ただ叩くだけだということはよく分かっています。本気にして戸をあけたなら、馬鹿をみたのは、私の方だったでしょう

この歌には、あなたに深い気持ちがないのに、私がこれを本気にして戸をあけたら…という紫式部の道長に対する思いが、にじみ出ているとも言えるのではなからうか。

現在私は、『源氏物語』のマンマー語翻訳を始めつつ、“『源氏物語』翻訳文化論”という博士論文に以下のタイトルにて取り組んでおります。

- 第一章 世界における翻訳者の『源氏物語』との出会いと翻訳の意図
- 第二章 マンマー語翻訳における仏教と信仰の扱いについて
- 第三章 和歌に機能的役割と翻訳困難性
- 第四章 草子地と語りの叙述構造における翻訳の問題

プログラム 予告

- 10月 6日(木) 理事会 11:00~ オークラ3F (ジュピターの間)
 会長挨拶 野堀 喜作 会長
 招待卓話 「昨今の医薬品市場の動向について」
 第一製薬土浦営業所所長 市川 豊 氏
- 10月13日(木) 招待卓話「米山月間に因んで」
 米山奨学生 李 宜真さん(筑波大生 台湾)
- 10月20日(木) **ガバナー公式訪問** オークラ3F (ジュピターの間)
(12時15分集合)
- 10月26日(水) に変更(夜の移動例会) つくば市内3クラブ合同例会
 PM7:00~ グランド東雲

■編集後記■

週明け、宮里メジャー初V、最年少記録、ツアー10勝目、華々しい新聞の見出しが並びました。首位を守って、独走、さらに上を目指して果敢に勝負、感激の涙、藍ちゃんの海外修行の成果が集約された感があります。史上最多のギャラリーも満足と納得の1日でした。そして、ヤンキース地区優勝。松井も頑張った。勇気とやる気を鼓舞された週末でした。話が違って、秋の夜長がはじまります。源氏物語を読んで、あなたも光源氏になりませんか？先日、源氏物語の謎をわかりやすく教えてくださいとワインさんにお願ひしました。乞う期待。

ゆうこう クラブ会報委員長 佐藤 裕光

日本人でさえ苦手に思え、遠ざけてしまっている「古典」「源氏物語」。それを研究対象とされているワイン[Khin Wine Ye]さんには驚きます。レポート中の、文章の言い回しの表現力や、時代背景の分析内容など、日本人以上に日本文化に詳しくてもう脱帽です。反対に私が知っているミャンマーの事と言えば、「ビルマの豎琴」位。ん？これ日本映画だし、原作も日本人だなあ。さあて、秋の夜長はミャンマー文化研究と源氏物語研究に励みますか。

クラブ会報委員 齊藤 修一

例会日 木曜日 12:30~13:30

例会場 「オークラフロンティアつくば」つくば市吾妻1丁目1364-1

ホームページもご覧下さい
<http://www.46gama.com/>

つくば学園ロータリークラブ

〒305-0047

茨城県つくば市千現2丁目1番6 つくば研究支援センターA28

電話 029-858-0100

FAX 029-858-0101

Email:gakuenrc@axel.ocn.ne.jp



超我の奉仕